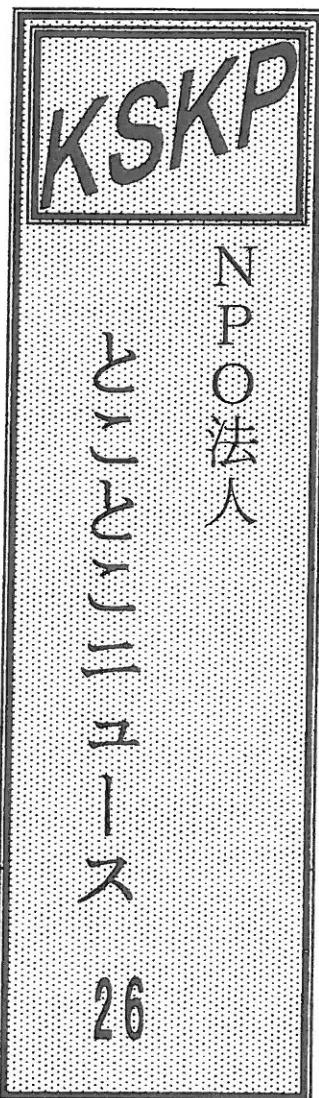


発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市城東区東中浜二丁目十の十二 緑端グリーンハイツ1F アド企画
 一九八四年八月二十日第三種郵便物認可 毎日発行 頒価百円



NPO 法人 “とことこ” です

NPO 法人理事長 中山君江

二〇〇七年、明けましておめでとうございます。

今年は皆様方にとってよい御年でありますよう御祈り致します。

さて、二〇〇七年から障害者情報クラブニュースは、NPO 法人とことこニュースに変わります。

私は理事長の中山君江です。改めましてどうぞよろしくお願

致します。全盲で可愛いつもりのおばちゃんギャルです。

障害者情報クラブから介護支援センターとことこ、障害者情報クラブILセンターが力を合わせて親から離れNPO 法人をとり、NPO 法人とことことなりました。

スタッフ一同、頑張りますので今後ともどうぞよろしくお願

致します。
 二〇〇六年は、福祉はめまぐるしく変わり、ついていくのが大変でした。作業所にしても事業所にしても四月～十一月にかけて賢くなったり、頭の中が空っぽになったり、心細くなったりで慌ただしい年でした。

26

本当に地域で普通に暮らしていくのが障害者には難しいものと感じました。

一つのサービスを受けるたびにお金、お金……。その人にとって払えるものなら払わなければいけないでしょうが、年金生活には限度があります。

視力障害者は利用する移動支援を、通院は不可欠で減らせませんが、他の用事の外出は、減らしており、自立生活支援法が閉じ込めり支援法に変わってしまっています。

車いす障害者は、朝起きてから夜寝るまでヘルパーに介助してもらわなければ生きていけません。介護時間を減らすわけにはいきません。

この二〇〇七年は、どんな年になるのでしょうか。障害者になっても、歳がいつても心豊かに暮らせる国にあつてほしいと願います。人は障害者にならなくても誰もが歳をとっていくのですから……。

さて、障害者情報クラブから巣立った、とことこですが、介護支援センターとことこは、障害者居宅介護と地域生活支援事業でヘルパー派遣をしております。

ILセンターは障害者のための作業所で、地域に住む障害者が、自分に何が出来たのか、何をしたいのかを見つけて自分らしく生きていくよう頑張っています。

なかなかこちらの方にも厳しい風が吹いております。

障害者情報クラブはボランティア団体として障害者の支援活動

をしていきます。思えば平成元年に発足、車いすウォークラリーを開催して外出の喜びを知らない重度障害者に外の世界にふれてもらいました。

私が今でも覚えているのが、あるグループ、武庫川の橋の上から障害者が「川の水ってこんなふうに流れているのか」と言っていて感動したそうです。車いすウォークラリーは障害者がリーダーになつてボランティアと三人ぐらいでグループを組でコースを回ります。その言葉を聞いて周りの人がびつくりしたそうです。外に出ない障害者にとつては、なにかもが珍しく感動なのです。

十三年ほど前の話です。私たちが当たり前のことを知らずにいるのです。電車に乗ればお金がいるのを知らない人もいました。

そんな障害者を少しでもウォークラリーの中から世間を楽しく学んでもらえたら、そして一人でも多く地域で自立生活をしていくてくれたらいいのにとの想いの車いすウォークラリーでした。

今は、かごの鳥から自分なりに自立へと外へと飛び出しています。とことこも自分らしく生きていけるようにお手伝いしていきます。と思っています。



二〇〇七年を迎えて

障害者情報クラブ 代表 坂上 正司

昨年九月、宝塚市は障害者自立支援法に基づく福祉サービスの公益負担の激変緩和措置を発表しましたが、十二月二十六日、国（厚生労働省）は障害保健福祉関係部局の全国主管課長会議を開催し、障害者自立支援法の更なる軽減措置の内容を明らかにしま

した。

来年度からの負担上限額の引き下げなど、国の措置には一定の評価をできるものの、障害者自立支援法の枠組みの中で検討されたがゆえに、公益負担、障害程度区分などの根本的な問題点には全く手を付けていません。

兵庫県は県で独自の措置を年末に発表しましたが、国が新しく激変緩和措置を明らかにしたことから、宝塚市・兵庫県独自の減免制度や上乗せ施策の実施にブレーキがかかることも予測されます。

今年一月十日になって宝塚市では漸く障害者自立支援法に基づく障害者サービスの目標を設定する「障害福祉計画」策定のための社会福祉審議会が開催されました。

審議会の委員には障害当事者は一人もなく（井上きよし市議会議員が市議としては参加している）、今回計画策定のために召集された臨時委員においても障害当事者は私ひとりという状況です。

初回の全体会で、横出し、上乗せの柔軟性のある計画策定を提案し、数値目標についてもサービス単価の低下を伴わないことの確認を求めましたが、いずれもはつきりされないまま終了しました。法では計画は年度中に策定しなければならぬので、残り二ヶ月ほどしかありません。

宝塚市としての基本指針も決まらず、どうやら法文に目を通したこともないような委員が若干名いるような審議会で中身のある計画ができるのか、かなり不安を感じています。

また、小規模作業所についても宝塚市は要綱を残すというよう

なことは言っていますが、兵庫県の方角がはつきりせず(執筆時)、補助金額をどうするかすら決まっています。三月になって、補助金の減額などをいわれても対応のしようがありません。非常に不安な状況が続いています。国・兵庫県・宝塚市のいずれも地域活動センターへの移行を目論んでいるようですが、明らかに障害者(利用者)ひとりあたりの補助金額が減額されるために立ちゆかなくなります。

また、本来小規模であることが持っている障害者同士のエンパワメントや地域拠点としての役割も果たせなくなっています。

折角、家から毎日出ることができるようになった障害者をまた家に戻したり、施設に追い込むことになれば何をやっているのかわかりません。

二〇〇七年を迎えて改めて思うことは、諸悪の根源「障害者自立支援法」を廃案にしなければいけない。

.....

独立(独り暮らし)開始5年目を迎えるにあたって

金岡 幸二

二〇〇七年の新春を迎えられ、皆さんおめでとございます。

さて、今より五年前の二〇〇二年の春に、思い切って独り暮らしを始めました。もちろんそれ以前に準備というか、もうすでに独り暮らしを实践されている方を訪問させて頂いたりお話を伺ったりして、自分の気持ちをコントロールしながら独立しなくてはいけない、いや、独立しよう、と徐々に気持ちを固めていったように思います。

紆余曲折色々ありましたが、今現在、これで良かったと思っています。幸いに、独り暮らしになってから、この事に関してノン・トラブルで来れたのも、家族やヘルパーさんを始め多くの方々のお力添えがあつての事だと感謝しています。

さて、これから先の五年・十年を考えてみると決して樂觀視することは出来ないと思います。一般健常者の人達はもちろん、我々全ての障害者にとつても非常に厳しい状況になるのではないでしようか。

昨今のニュースでは、景氣の回復・拡大を盛んにアピールしていますが、私の財布には一向に反映されません。食費・光熱費・訪問看護費・衛生材料費・通院五百円×回数・自立生活支援費上限額二万四千六百円＋α・・・と支出はかさむ一方、なのに収入は年金のみ。今は何とか元氣で暮らしていますが、年々歳を重ねていくと少々、いや大いに不安です。

五年目を迎えるにあたって、今後益々健康に留意し、自分の生活の範囲内で毎日を楽しく過ごせる様努力して行こうと考えています。

障害者人権研修会の講師体験記

古谷 かおり

障害者情報クラブ I L センターを通して、NPO 田島協働福祉会事務局長の山田さんから、大阪市立田島中学校での教職員・PTA・地域住民を対象にした「障害者人権研修会」の講師依頼を頂いた。二年前に同中学校で講義をされた障害者情報クラブの坂



上さんを介しての、私への依頼らしく、それだけでも少しプレッシャーを感じた。

最初、講義のテーマは「障害者生徒が公立学校で学ぶこと」と言われ、私は小・中・高と養護学校で、普通校には通ったこともなければ、「公立学校」の何の知識もないし、いい加減なお話しをするわけにもいかない。テーマを変えてもらえない限り、この講師依頼はお断りしなければいけない、と思い、まずはＩＬセンター長に相談し、福祉会事務局長さんと私とで直接メールで連絡を取り合うことになった。

私は正直に、「講師依頼を頂いて嬉しく思いますが、このテーマを中心に専門的な話を望まれるなら私には難しいなと思います。でも、大好きなマッチの話も織り込んで・・・とのことで、堅苦しくは考えず、私自身が養護学校に通っていた頃から、現在までの体験や思い、人との関わり、コミュニケーションについて・・・などをお話しさせて頂けば良いでしょうか？」と伺って見たところ、テーマを「障害者とコミュニケーション」に変更して、「あくまでも、あなたらしく楽しく話して下さい」と配慮して下さい、お引き受けすることができた。交通手段や自分の話しやすい状況の設定などについても、細かく連絡を取った。

それから今回は、思い切って講義の内容も全部書き直した。内容は・・・

・私が一人暮らしを始めてからのホームヘルパーさんやガイドヘルパーさんとのやりとりについて。

・養護学校時代や施設に居た頃の経験や思いなど。



・障害者と話す時は介護者ではなく、障害者本人と話をする姿勢を持つていてほしい、ということ。

・障害者のコミュニケーションの取り方はさまざま、だということ。

・憧れのマッチ（近藤真彦）とマッキー（横原敬之）については、昔と違って、パソコンで情報が早く入ってくるし、コンサートのチケット申し込みも電話で番号を打ち込んでいけば良いので、自分の足を使つてできるから嬉しい、車椅子席の配慮も良くなつた・・・など。

当日の昼食には、手作りの牡蠣ご飯などを御馳走になった。

そのあと講義が始まり、休憩を挟んで、一時間話した。今までに講演は何度か経験してきたのと、特に今回は「楽しく話して下さい」と言ってもらえていた為か、今回は今までで一番緊張せず話せた。そして、私の本も買って頂けた。本を買ってもらえるのは講演会がチャンスである。

質疑応答の時間に、質問がなくて残念だったが、二三名の人が感想を言つて下さった中で、「うちの子は障害があつて言葉も話せないし、まだ何が楽しみなのか解らないが、古谷さんのように何か楽しみを見つけてやりたい」と言われたことには、逆に考えさせられた。

始まりと終わりの、校長先生、教頭先生、PTA副会長さんからのご挨拶と、素敵な花束を頂けたのが嬉しく、「私をこんなに遠方まで呼んで頂いても、お役に立てるのだろうか？」と思つて

いたが、「来て頂いて良かった」と言われて、無事に役目を終えることができ、ほっ、とした。

ところで、講師依頼を頂いた当初、私がマツチのファンだということなぞ知っているのかな？と思っていたが、「障害者情報クラブニュース」を愛読して下さっているからだということで、これもまた嬉しい。

福祉社会事務局長さんはとても気さくな方で、「本当は障害者のことを知らない人にも聞きに来てほしいけどね」「実は、かおりさんのことは、三年前のガイドヘルパーの講習会の中から知っていましたよ」と言われて（私は知らなかったけれど）、このようになつながら有り難いなあ・・・と思い、「ぜひ、またI・Lセンターのメンバーを呼んで下さい」とお願いしておいた。



障害者情報クラブの歴史(2)

「ウォークラリー」と「ガイドブック」《その1》

坂上 正司



一九八九年六月～九月

障害者情報クラブの前身となる、「第九回車いす市民全国集会・街づくり（宝塚）分科会」実行委員会がはじめて集まりを持ったのが、一九八九年六月、宝塚市役所の一角でした。集まったのは、井上聖（現市議会議員、当時は市民税課吏員）、藤原隆文と私を含めた五名。思わず「他には？」と問いかけましたが、井上が笑い

ながら「これだけ」という声のみでした。担当分科会のテーマが「街づくり」ということでしたので、まず決めたことが、宿舎と会場の車いす利用者向けのガイドブック、ガイドビデオの作成でした。そして集会が終わったら、グループを立ち上げて、宝塚市内版の障害者向けガイドブックを作ることも同時期に決めていました。その後、神戸で障害者向けのガイドブック製作の経験がある鈴木昌子をはじめ、市内の障害者や学生ボランティアなどで人数を増強しました。実行委員会を繰り返す中で、その模様が八月十九日付の産経新聞に取り上げられましたが、そこでは、なんと「宝塚市車いすガイドブック準備委員会」として登場しています。メディアに登場してしまったことで、組織化への強い思いが出てきたと思います。

九月二十二日（土）から二十四（月・休）にかけて西宮を中心に開催された「第九回車いす市民全国集会」の分科会は二十三日（日・祭）に阪神各地で分散開催されました。宝塚はまちづくりの担当で、ファミリールランドから総合福祉センターへのピクニックを中心に行いました。アテンドシステム関西圏での普及を標榜した全体会の実行委員会からできたメインストリーム協会に対して、障害者情報クラブが黎明期にレクレーション中心になったのはこういう理由からです。

一九八九年十月～九一年三月

十月二十八日（土）、街づくり分科会実行委員会解散と同時に、委員二十名にて障害者情報クラブの設立宣言をし、初代代表に井

上聖、事務局長に私が選出されました。設立趣旨は、「移動権の確保を出発点として、障害者が自主性を失わない、真に人間的な生活を実現すること」として自立生活センターを目指しました。その後、情報収集と月二回以上のペースで会議を繰り返していきましました。しかし、会議は夜になることが多く、多くて十人程度しか集まらないため、煮詰まってきました。

そこで、一九九〇年度には二つの対策を講じました。まず、目標をはっきりさせるため、四月に先達である岸本博之さん(姫路福祉マップをつくる会事務局長)に話を伺いました。また、五月に入り、人材を集めるためにウオークラリーを計画に入りました。当時できたばかりの福祉推進課の後押しもあり、「第一回回すウオークラリー」と命名され、開催日を前年集会を開催したのと同じ九月二十三日に山本・平井周辺で行うことに決めました。「第一回」と命名された以上、継続することを前提とされる運命にありましたが、福祉推進課の松藤聖一氏、故・川崎均氏、障害福祉課の稲本雅俊氏、社会福祉協議会の佐藤寿一氏等の強い協力もあり、無事成功させられました。ウオークラリーでは主に障害者を家や施設から引っぱり出すことを目的にしていますが、介助者の使い方の体験、介助の体験、準備段階での情報収集、地域へのアピールなど思わぬ波及効果がありました。

ウオークラリーで有名になったことで、兵庫県身体障害者福祉協会ブロック研修会の企画、パソコン通信ネットワーク「情報倉庫西宮」の福祉系掲示板の運営、宝塚市職員研修や社会福祉協議会での講演、既存グループのテコ入れ等雑用が急増しました。

一九九一年四月〜九二年三月

一九九一年度は朗報から始まることになります。宝塚市が障害者向けガイドブックの製作を当クラブに委託することを決定。当時としては法人格も持たない任意団体に事業委託することは宝塚市ではほとんど前例がなかったそうです。記者会見も行い四紙が取り上げてくれました。学校などの協力を得て土曜学級や夏休みに集中的に取材をして、秋冬に補足取材、年度末に完成しました。目立つことをすると、それを利用するものも現れて恐れ入りました。まずは、前年議会で差別発言をした市議が完成記者会見で自分の成果としてまくし立てていったのには開いた口がふさがりませんでした。また、某資産グループが、「増刷資金を出してやるから、制作者として名前を掲載しろ」とも言ってきました。

一方、この年は市長と二度にわたる交渉をして、市立西公民館建築計画と宝塚駅前再開発事業、市立スポーツセンター体育館や温水プールの障害者の利用や障害職員の自力通勤規定について訴えました。市立西公民館については交渉の結果、企画段階からの障害当事者の意見を取り入れてつくることが決まりました。また、身体障害者福祉団体連合会機関紙「身障連だより」編集も委託され、一年ちよつと関わりました。

この年のウオークラリーは、ガイドブック取材の都合もあり八月から準備にかかり、宝塚市立病院や小浜自治会の協力を得て十月六日(日)に小浜で実施しました。この年はろうあ協会や中途難聴者の会の行事に呼ばれることが多くなり、学校からの講演依頼も急増しました。

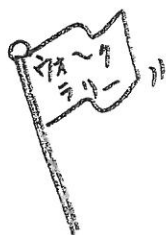
一九九二年四月〜九三年三月

一九九二年度は、宝塚市が障害当事者主体の企画運営を保障した「障害者の日記念事業」が始まり、私が実行委員会副委員長に選出され、浅野史郎氏（厚生省元障害福祉課長）、牧口一二氏、大熊由起子氏を講演に呼びました。二年間頑張ってみました。どの団体も自分たちのことしか考えず、当クラブが関わりをやめると運営主体を市役所に取り返されてしまいました。

この年のウォークラリーは「障害者の日記念事業」とタイアップしたことで七月から準備を始め、十一月三日に市役所を起点・終点として逆瀬川・小林周辺で実施しました。同時に消防署や阪急電鉄の協力も得て逆瀬川駅で駅利用も体験しました。朗報としては「朝日福祉助成金」で情報発信のための印刷機を頂き、このとき受賞団体の紹介記事でウォークラリーの写真が唯一朝日新聞全国版に掲載されました。

またこの年からしばらく恒例になる花火大会観覧や新装した阪神競馬場、ペタンク、姫路セントラルパーク、ピアノコンサートへの協力などレクリエーションも多数実施しました。一方、スポーツセンター温水プールのバリア問題や障害児の普通校就学問題で市との交渉も何度かおこないました。代表の井上がサンフランシスコ、ロサンジェルス、バークレーの視察にいき、社会福祉協議会から表彰されたこともありました。ひょうご地域福祉振興基金から活動に対する奨金も出しました。

次回につづく



国体スポーツ

サウンドテーブルテニス

中山 君江



サウンドテーブルテニス、略してSTTと言っています。私も何年か前にやっていました。これでも県で優勝したこともあるのですよ。エッヘン……。今はルールがずいぶん変わったみたいで、もうついていけないでしょうね。音で聞いて音で返す、きつく打てば外に飛び出すし、ゆるく打てば向こうに行く前に止まってしまうし、なかなか難しいものです。私が忘れられないのが、視力仲間の女性です。一昨年の静岡障害者国体に出場したのです。ラケットに球が当たった時の音です。コンとなんととも言えない音なんです。軽やかというか清々しいというか今でも耳に残っております。

もう一度聞きたいのですが、その音は昨年夏の終わりに天国に逝ってしまいました。まだ五十歳すぎたところでした。彼女は準優勝でした。そんなおもしろいあの音を探してみました。聞こえてきませんでした。あの音は誰も出せないのでしょうか。視力障害者に限らず障害者が出来るスポーツは工夫されてきて、前よりも増えてきました。自分が楽しめるものがあつたらトライしてみませんか。それで仲間が増えたり体を動かせたらいいですね。

二〇〇六年一〇月一五日

障害者国体神戸サウンドテニス部 部長 小森さん

兵庫サウンドテニス部 部長 小森さん
安井勉さん、植山玲奈さん



《小森さんと対談》

石川 こんにちは、小規模作業所I・Lセンターの石川です。

私どもでは、ニュースという機関紙を年に二回発行しているのですが、そちらの方に今回サウンドテニスについて皆さんからお話をお聞きし、障害者スポーツをまだご存知のない皆さんにも、もつと活動を広げて参加してもらえたらと思います、取材をさせてもらうことになりました。

本日はよろしく願います。

石川 サウンドテニスと何時頃、出会われましたか？

小森 震災後、平成9年に、障害福祉センターで、近畿大会があり、その大会の当番が回ってきて、尼崎情報部が出してテープを聴いたところ、(地元の参加者が居なかったので残念でした。)という内容だったんです。

私は中途失明で、進行性ですから、少しずつ視力が無くなって来ているのですが、目が不自由になってもスポーツは何らかの形で出来るんだなという事をそこで知ったわけですね。

水泳ならできるのかなと思ったのですが、そのときは、寒い時期で、そんな時ヘルパーさんが、「卓球をセンターでやっとなら、顔出して見たら？」と言われた事がきっかけで、

けで、そこでやってた方が、県大会に出場するという事で、

じゃあ是非応援に行かせていただきますよ、という事で、

応援に行っただけです。

そこで初めて、中山君江さんと出会ったのです。そこから卓球が大好きになりました。

中山 そーやな、そーやってんね。

中山 中山さんとも決勝戦で一緒に戦ってもらいましたね。

小森 あの時は、たまたま勝たしてもらったけど。

中山 そういって卓球を続けています。

小森 では、ある意味偶然というか、運命みたいな出会いだったわけですね。

石川 そうですね、中山さんともお会いできたしね。

小森 では、サウンドテニスをやっていて良かった事はありますか？

石川 やっぱね、みなさんと、大勢の方との出会いですね。

小森 スポーツを通じて友達の輪が広がった事ですね。

石川 なるほど、では、ここだけは是非見て欲しいという所はありますか？

小森 そうですね、とかく視覚障害者の方がスポーツをするというところ、結構視覚の方だけと思われがちだけど、サウンドテニスというの、一部と二部がありまして、

一部はアイマスク着用、二部はアイマスク不用なんです。

で、健常者の方もアイマスクを着用すれば、同じようにサウンドテニスを共有出来ると思うんですよ。

小森

で、健常者の方もアイマスクを着用すれば、同じようにサウンドテニスを共有出来ると思うんですよ。

小森

で、健常者の方もアイマスクを着用すれば、同じようにサウンドテニスを共有出来ると思うんですよ。

小森

で、健常者の方もアイマスクを着用すれば、同じようにサウンドテニスを共有出来ると思うんですよ。

小森

イマスク無しで一般の方とも、STTを楽しむ事も出来ませんから、そこが一番いいですね。

視覚障害者の方だけのスポーツではないことをみなさんに知ってもらいたいということですよ。

健康者の方とも共に出来ると思うんです。

また、それが新たな出会いになるかもしれないですね。

そうですね。

これからの目標は？

全国大会に出場すること。サウンドテーブルテニスが、視覚障害者の方だけでなく、皆さんと共有できるスポーツに出来たらいいなと思っています。

では、最後に、現在スポーツをされていない人、まだ出会っていない人に向けて何か一言お願いします。

まず一步踏み出して、見学からでも、されてみたらと思います。まず一步から頑張つて欲しいです。

そうですね、色々なスポーツもありますし、それを始める事によって、色々な出会いがあるかもしれませんよ。

色んな、出会いがありますよ。

なるほど、それでは質問は以上です。本日はありがとうございました。

《安井さんと対談》

土井 サウンドテーブルテニスをされて、良かったことは？

安井 僕らもね、正式にやりだしたのは、四、五年前で、これをやることによって、沢山の仲間が出来て、交流ができる



事がよかったことです。

土井 そうですか、お友達がいっぱい出来てきた事が良かったという事ですね。では、逆に苦勞した点がありますか？

安井 それはねえ、ルールも厳しいですしね、これに慣れようと思つたら大変です。おかげで、僕らもね、四、五年して国体にも出てこれた良かつたと思っています。

土井 では、これからの目標は何がありますか？

安井 卓球をやりだして、県で勝たしてもらつて、次は国体と思つて、ここまで来させてもらつて、まあ、これで、僕の目標は出来ましたから、後はもう運動やと思つて楽しみながら、やつてもいいかなと思っています。

土井 この取材は色々な障害者、もしくは健康者に向けて発信しているのですが、今まだスポーツに出会っていない方に向けて何か一言あればお願いします。

安井 障害者だからといって、家に引つ込んでおらずに、やれば、僕らみたいに全くの全盲でもこれだけのことが出来ますから、諦めずに、いろいろなスポーツをやってもらつたら良いと思いますよ。

土井 では、今日は、どうもありがとうございました。

《植山さんと対談》

石川 こんにちは、では、さっそくですが、二、三質問よろしいですか？

植山 はい！。こんにちは。

石川 では、サウンドテーブルテニスにいつ頃、出会われたの



ですか？

植山 小学校の授業で、少し出会いはして、部活は中学校の一年からです。

石川 部活動で始められたのですね！

植山 高校三年生まで、盲学校の中学高等部で、部活でやっておりしました。

石川 サウンドテーブルテニスをやっていて良かった事は？

植山 友達とか、先輩達との輪が広がった事と、体力をあまり気にせずに、楽しく出来る事が一番です。

石川 では、これからの目標は？

植山 その時その時を楽しく充実した練習になるように、頑張ります。成績が良いにこした事は無いですけども、楽しくやる事だけなのです。そんな大それた目標はないのです。

石川 そうですか。では最後に、障害者の方、まだスポーツをされていない方に向けて何か一言いただけますか？

植山 卓球は、とにかく音を聞きながらやるスポーツです。

楽しいスポーツですので、みなさん、そんなに体をハードに動かさないといいけないわけではないので、どうぞ、もし、よろしければ、やってみられたらと思います。

石川 今日は、どうもありがとうございました。

植山 こちらこそ、どうもありがとうございました。

健闘されて、安井さん、植山さんは3位という成績を残されました。



寄稿



笑顔でいこう

皆さんは日頃、何か心掛けていることはありますか！？

私は人と接するときにはできるだけ笑顔でにこやかに話をするように心掛けています。

人は『言葉と笑顔』一つで誰もが人を幸せな気持ちにしてあげることが出来ます。

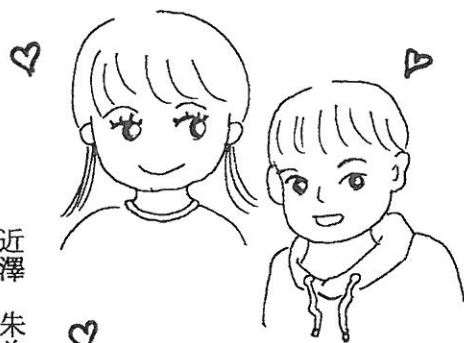
しかし、これが簡単なようではなかなか難しいものです。

私は子供達の自然に溢れ出す笑顔を見ると、それだけで幸せな気持ちになります。

私もそんな子供達を見習って、できるだけ、人と接するときには笑顔を忘れないようにしたいと思うのです。

気分が沈んでいるときにこそ、笑って自分自身を元気にしたいとも思っています。私が勤めている、ILセンターにはそんな笑顔の素敵な人がたくさんいます。

これからも笑顔溢れるILセンターで力を合わせて楽しく働いていけたらいいなと思っています。



近澤 朱美

今回は、スカイ宝塚さんを紹介いたします。〈3〉

同じ目の高さで

スカイ宝塚事務局長 高瀬 健三

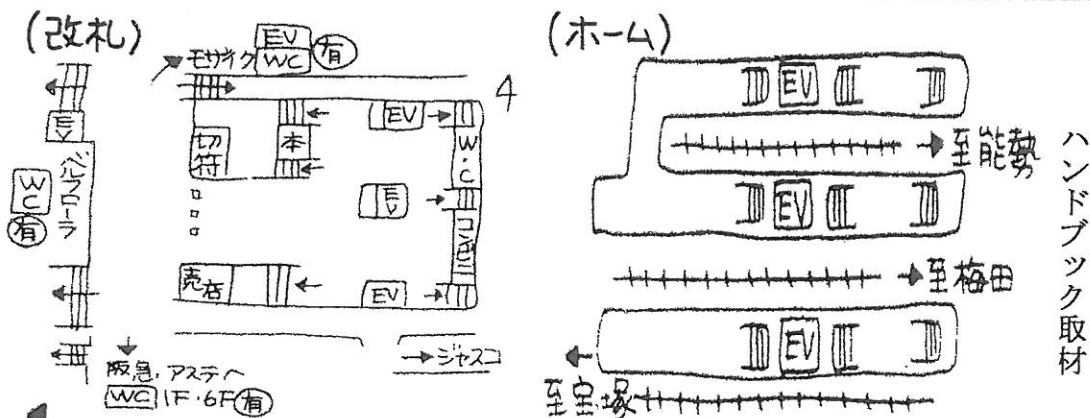
こんにちは、スカイ宝塚（私達）です。私達は精神障害当事者会です。二〇〇四年にセルフヘルプグループ（SHG）として発足しました。SHGは、利益を受ける側も与える側も同一平等、組織よりも人を大切にする、政治・宗教を持ち込まない、等を理念として全国のSHGとゆるやかに連携しながら、当事者の目の高さから発信を続けています。

行事は定例会、ピア・カウセリング、レクリエーション、学習会、行政交渉等を行っています。

自立支援法施行時より、宝塚小規模作業所連絡会（宝作連）にも加盟しており、諸活動を行ってきました。

話は変わりますが、世間は景気の好不調だけで全ての生活の根幹まで変化する勢いです。それは政治の無策もありますが皆で方向を良くすべきです。私達は「障害の特性も踏まえ、きちんと福祉にお金を遣つてくれよ」と言いたいのです。

（出来ない）私達ですから、ゆっくり、ゆったり、ぼちぼちと、かつしつこく諦めずに多くの方々の支援を糧に歩んでいきたいので今後とも末長く宜しくお願いします。



（阪急川西能勢口駅）

阪急川西能勢口は、2Fが改札で西口には身障トイレ、全てのホームに上がるエレベーターもあり、不便なく使うことができる。また東口では身障トイレはあるが、エレベーターがないので車椅子での利用は難しい。

駆周辺には身障トイレはモザイクボックスのB1にあり、ベルフローラの2F、アステには1F、6Fにあります。

障害者情報クラブの企画でよく使っているラウンドワンは西口の駅前で、エレベーターを使つて行くことが出来ます。

車椅子で使える投球台も置いてあります。

川西はさすがに整備されていて特に不便なく調査することができました。

「これを見て行ってみてね！」

西公民館の自動販売機をご利用ください

宝塚市立西公民館（阪急今津線小林駅から徒歩五分）の四階・レクリームBの前に設置されている大塚製菓の自動販売機は、管理のジャパン・ビバレッジ（旧：ユニマツト）のご協力により収益の一部が障害者情報クラブの運営費として一九九四年四月より寄付されています。しかし、四階のわかりにくい場所におかれているため、なかなか売り上げがあがらず、収益が伸び悩んでいます。みなさん、西公民館をご利用のおりには、是非、大塚製菓の自動販売機をご利用いただき、当クラブを応援して下さい。

●事務局より

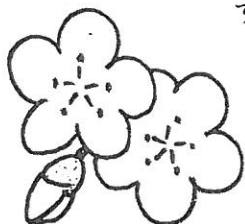
○寄付金の御礼

以下の方により寄付を頂きました。

今後の会の運営で有効に使わせて頂きます。

ありがとうございました。

* 小林聖心女子学院 様



NPO法人とことこニュース

編集人 NPO法人とことこ

所在地 〒665-0816

兵庫県宝塚市平井2丁目1番10号ハイツ・エフ・オー205号

NPO法人とことこ 障害者情報クラブILセンター

TEL&FAX 0797-82-2233

Email sjcil@hotmail.co.jp

郵便口座 14360-43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店 普通 3566211

障害者情報クラブ